

悪魔の策略に対抗して

マルコによる福音書 7 : 14 - 23
エフェソの信徒への手紙 6 : 10 - 20



司祭 ヨハネ 井田 泉

2024年9月1日
聖霊降臨後第15主日
上野聖ヨハネ教会にて

主イエスは弟子たちに「主の祈り」を教えられました。その祈りをわたしたちも受け継いで祈り続けているのですが、その最後は「わたしたちを誘惑におちいらせず、悪からお救いください」という祈りです。わたしたちは誘惑におちいりやすい。また悪に脅かされ、狙われている。そのことを知っておられたイエスは、わたしたちを守るために、この祈りをわたしたちの心と口に入れてくださったのです。

ところで今日の使徒書も福音書も、その「悪」を問題にしていました。まず福音書のほうでは、ファリサイ派の人々と律法学者たちの非難を退けた後で、イエスはこう言われました。

「外から人の体に入るもので人を汚すことができるものは何もなく、人の中から出て来るものが、人を汚すのである。」

マルコ 7:15

「みだらな行い、盗み、殺意、姦淫、貪欲、悪意、詐欺、好色、ねたみ、悪口、傲慢、無分別など、これらの悪はみな中から出て来て、人を汚すのである。」マルコ 7:21-23

わたしたちの心の中に侵入し、心を占領し、心を動かして悪を行わせる悪、闇の力をよくよく警戒するやうにと、イエスは言われたのです。その悪は、人間関係や組織に浸透するし、また国家権力をとおしてすさまじい破壊を行うことがあります。

イエスご自身が世の悪に直面しておられました。それどころ

かイエスは悪の力によって迫害され、捕らえられ、最後は十字架につけられて殺されました。しかしそれによって悪の本性が暴かれました。イエスは悪の根源をご自分に引き受けて死んで、復活されました。イエスの十字架と復活によって、悪の根源は決定的に砕かれたのです（ヘブライ 2:14）。

そしてイエスが再び来られる時、神の愛と救いが完全に世界を覆い尽くし、悪の最後のあがきは完全に消滅する。わたしたちはその希望の日を目指して生きるようにされたので、最終的には楽観的であることができます。

けれども現実にはなおこの世界には悪が力を振るって、人々を苦しめています。またあわよくばイエスの弟子であるわたしたちの目を狂わせて、悪に奉仕させようとしています。

例えばガザでは、何の罪もない子どもたちの命が奪われています。その数は2万人に近いとも言われます。それなのにキリスト教国のはずのアメリカは、イスラエルへの武器提供をやめません。

また今日は9月1日、防災の日、ちょうど台風の最中にありますが、101年前に関東大震災が起こった日です。その大災害の上さらにひどいことが起こりました。震災後の混乱の中で、根も葉もないうわさが広がった。新聞までがそれを書き立てた。

朝鮮人が井戸に毒を入れた。朝鮮人が村を襲っているなどというのです。それを本気で信じた一般の人々が、何の罪もない朝鮮人を次々に殺していった。その数は 6000 人とも言われます。聖公会の信徒の中にも、あやうくその命の危険から脱出した人がいます。張^{チャンジュンサン}準相という青年で、日本統治下の朝鮮から来て当時立教大学の学生でした。彼は縁のあった奈良基督教会の吉村大次郎司祭を頼り、助けられて、そこでキリストの愛を深く知りました。彼は、苦しんでいる同胞に福音を伝えたいと伝道者になることを決意しました。それが大阪の聖ガブリエル教会の発端です。

尊い人の命を奪うようなことを二度と繰り返さないためには、事実をよく知り、悼み、心に刻み、間違ったことをしない、させない決意が必要です。

信仰的に言えば、心の深いところが、正義と平和の福音の光によって照らされ、導かれなければなりません。

そこで今日の使徒書、パウロの言葉に耳を傾けましょう。ここでパウロは、この世界や人々の心と生活を支配する悪の力、悪魔の策略に惑わされないように、打ちひしがれてしまわないように、わたしたちに強く呼びかけています。

「最後に言う。主に依り頼み、その偉大な力によって強くなりなさい。悪魔の策略に対抗して立つことができるように、

神の武具を身に着けなさい。わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。だから、邪悪な日によく抵抗し、すべてを成し遂げて、しっかりと立つことができるように、神の武具を身に着けなさい。」

エフェソ 6:10-13

ここで悪の力から身を守る武具として、パウロは比喻を用いながら大切なことを一つひとつ挙げていきます。

「立って、真理を帯として腰に締め、正義を胸当てとして着け、平和の福音を告げる準備を履物としなさい。」 6:14-15

真理の帯、正義の胸当て、平和の福音を告げる準備としての履物。

「なおその上に、信仰を盾として取りなさい。それによって、悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことができるのです。」

6:16

悪魔はわたしたちを狙って火の矢を放つ。わたしたちは危険にさらされ、絶望に瀕する。その火の矢をことごとく消すのが信仰の盾だということです。神にしがみつく。この信仰が、悪しき者の火の矢を消すことができるのです。

けれどもここまで挙げられたのはすべて攻撃を防ぐ武具ですね。防御するだけでなく、こちらからも悪しき者に反撃して退散させるべきなのです。そこで何が用意されているのでしょ

うか。続きを見ましょう。

「また、救いを兜としてかぶり」6:17

救いの兜。これも重要ですが、やはり防御用です。サタンはわたしたちの心の深いところを攻めますから、それを決定的に打ち砕いて退ける攻撃の武器が必要です。それは何でしょうか。

「^{つるぎ}霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい」6:17

これです。魂あるいは信仰にかかわる誘惑、試練は、精神力だけでは持ちこたえられません。神の霊、聖霊が、弱り果て混乱したわたしの魂を内側から潤して支えてくださらなければなりません。

「**霊の剣**」。これがサタンの攻撃によってこわばったわたしの魂の中に入ってきて、わたしのうちに潜む悪しき敵を追放します。聖霊が、神からの風が、神の息がわたしのうちに浸透して、わたしを守りよみがえらせるのです。

そして「**神の言葉**」です。「^{つるぎ}霊の剣、すなわち神の言葉」とはどういうことでしょうか。それは神の霊と神の言葉がひとつになって働くとき、悪魔の攻撃を打ち砕き退散させる強力な武器となる、ということです。

たとえば聖書は、そこにあるだけでは印刷された文字です。読んだとしても少しも心に響かないことがあります。ところがそこに聖霊が働いてくださると、その聖書の言葉が、わたしの

ために書かれていることを発見して驚く、救われる、ということが起こります。

わたしが神学生るとき、長く神さまを見失って闇の中にいました。あるとき、旧約聖書・エレミヤ書の言葉に触れました。

「わたしは限りない愛をもってあなたを愛している」 31:3

この言葉にどれほど慰められ、支えられたことでしょうか。

「霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい」

あなたのために差し出されている神の言葉を受け取って、それをあなたの力とし、悪しき力を克服しなさい。

わたしたちは主イエスに従うように呼ばれました。主イエスとともに神の国を、平和の世界を広げていくために招かれました。それは悪魔にとっては一番苦々しいことです。悪魔の王国、支配が碎かれるからです。そこでわたしたちをその道から踏み外させよう、わたしたちを失望させようと、サタンは狙っている。そこで神は、主イエスは、わたしたちに身を守るものとともに、悪を退ける霊の剣、神の言葉を授けてくださるのです。

この後、パウロは祈ることへとわたしたちを招きます。祈りの中でこそわたしたちは守られ、相互に強められるからです。

「どのような時にも、“霊”に助けられて祈り、願い求め、すべての聖なる者たちのために、絶えず目を覚まして根気よく

祈り続けなさい。」エフェソ 6:18

祈りましょう。

神さま、わたしたちを誘惑におちいらせず、悪からお救いください。主イエスに従って神の国を、平和と愛の世界を広げていくために、わたしたちを守ってください。霊の剣と神のみ言葉によって悪しき力を退けさせてください。わたしたちが信仰者としてしっかりとさせられ、また人を支える者となることができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン